

幼児期の遊びへの関わり方の違いとその影響

—自己調整力, 好奇心探究心, 表現力を中心に—

○角谷詩織 (上越教育大学大学院)
渡邊典子# (上越教育大学附属幼稚園)

梅川智子# (上越教育大学附属幼稚園)
亀山 亨# (上越教育大学附属幼稚園)

問題・目的

幼児 (年少・年中・年長児) が遊びこんでいるエピソード中における遊びへの関わり方の違いが、幼児期に育まれるべき力—自己調整力, 好奇心探究心, 表現力—の違いを生み出す可能性を検討する。

方法

調査対象 新潟県内の幼稚園 3 歳児 (男児 6 名, 女児 7 名), 4 歳児 (男児 2 名, 女児 16 名), 5 歳児 (男児 16 名, 女児 9 名), 計 56 名。

遊びこみエピソードの抽出 2014 年 4 月～12 月にみられた幼児の遊びを, 各クラスの担任が感じた遊びこみの程度に基づき, 「遊びこみ度 1 (遊べていない)」～「遊びこみ度 5 (教師全員一致で遊びこんでいる)」に分類した。「遊びこみ度 5」のエピソードは, 3 歳, 4 歳児クラスで各 7 事例ずつ, 5 歳児クラスで 6 事例抽出された。各クラスの「遊びこみ度 5」の特性を Table 1 に記す。

Table 1 クラスごとの「遊びこみ度 5」の特徴

	子どもの様子	遊びに見られる要素
3 歳児	個人あるいは友だちと何らかの遊びに没頭し, 試行錯誤を繰り返している姿がみられる。ほとんどが教師が関わっている。	没頭, 試行錯誤, 教師の働きかけ
4 歳児	教師による課題の焦点化を中心とする関わりを伴いながら, 何らかの遊びに没頭し, 試行錯誤を繰り返す中で, 友だちとの協同がみられる。	没頭, 試行錯誤, 友だちとの関わり, 教師による課題の焦点化
5 歳児	子ども同士で, 試行錯誤, 協同のサイクルが進展する中で夢中になって取り組んでいる。教師は周回の関わりが多い。	没頭, 試行錯誤, 協同, 教師による素材提供

遊びこみエピソードへの登場回数のカウント 各幼児について, 「遊びこみ度 5」のエピソードに登場する回数をカウントした。その際, 「遊びこんでいる (メイン)」, 「ある程度積極的に遊びに関わっている (サブ)」, 「周回的に遊びに参加している (その他)」に分類してカウントした。

幼児の評価 2015 年 1 月, 各クラスの担任により, 各幼児について, 遊びこみ度, 自己調整力, 好奇心探究心, 表現力の評価を 4 段階で行った。

結果

エピソード登場回数内訳を Table 2 に記す。

幼児の評価得点の *M* および *SD* を Table 3 に記す。遊びこみ度, エピソード登場率と, 自己調整力, 好奇心探究心, 表現力との相関を Table 4 に記す。3 歳児と 4 歳児はほぼ同様の傾向を示したため, まとめた結果を記す。

考察

「遊びこみ度 5」と教師に評価された遊びにおいても, そこへの関わり方により, 幼児に生まれ

Table 2 事例出現数内訳 (人)

		0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回
3 歳児	メイン	6	2	3	2	0	0	0
	サブ	5	4	2	2	0	0	0
	その他	2	8	3	0	0	0	0
	メインorサブ	4	0	3	4	0	2	0
メインorサブorその他		0	2	4	1	3	1	2
4 歳児	メイン	11	3	2	0	1	1	0
	サブ	12	5	0	1	0	0	0
	その他	5	10	2	1	0	0	0
	メインorサブ	8	4	2	2	0	2	0
メインorサブorその他		1	6	5	2	2	1	1
5 歳児	メイン	17	3	1	3	1	0	0
	サブ	10	10	3	2	0	0	0
	その他	5	10	6	3	1	0	0
	メインorサブ	7	8	3	4	1	2	0
メインorサブorその他		2	2	6	6	5	1	3

Table 3 自己調整力, 好奇心探究心, 表現力の *M* 及び *SD*

	3歳児		4歳児		5歳児	
	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
自己調整行動抑制	1.74	.41	1.90	.53	2.69	.76
自己調整行動促進	2.35	.44	2.49	.76	2.92	.67
感情制御	3.13	.73	3.10	.84	3.36	.67
好奇心探究心	2.85	.82	2.26	.66	2.59	.82
表現力	1.90	.64	2.78	.82	2.73	.76

Table 4 遊びこみ度, エピソード登場率と自己調整力, 好奇心探究心, 表現力との相関

	生年月日	遊びこみ度		
		事例メイン	事例サブ	事例他
自己調整行動抑制	3・4歳児	-.15 <i>n.s.</i>	-.08 <i>n.s.</i>	-.10 <i>n.s.</i>
	5歳児	-.22 <i>n.s.</i>	-.26 <i>n.s.</i>	-.34 †
自己調整行動促進	3・4歳児	.38 *	.06 <i>n.s.</i>	-.08 <i>n.s.</i>
	5歳児	.49 *	.13 <i>n.s.</i>	.26 <i>n.s.</i>
感情制御	3・4歳児	.71 ***	.33 †	.13 <i>n.s.</i>
	5歳児	.85 ***	.51 **	.14 <i>n.s.</i>
好奇心探究心	3・4歳児	-.04 <i>n.s.</i>	-.31 †	-.05 <i>n.s.</i>
	5歳児	.25 <i>n.s.</i>	.13 <i>n.s.</i>	.14 <i>n.s.</i>
表現力	3・4歳児	.63 ***	.36 *	.27 <i>n.s.</i>
	5歳児	.76 ***	.72 ***	.17 <i>n.s.</i>
事例他	3・4歳児	-.27 <i>n.s.</i>	-.25 <i>n.s.</i>	-.15 <i>n.s.</i>
	5歳児	.46 *	.37 †	.05 <i>n.s.</i>

*** *p* < .001, ** *p* < .01, * *p* < .05, † *p* < .10

る自己調整力に違いが生じる可能性が示唆された。主体的に遊びに関わることの多い幼児ほど, 自己調整力の促進的側面に関わる力が育まれる可能性が見出された。また, 教師は, 遊びを一つの単位として遊びこみの程度を評価しつつ, そこに関わる幼児一人一人についても, 同時に, 遊びこみの程度を的確に評価している可能性が示唆された。